

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192902096		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム まごころの贈り物		
所在地	旭川市末広東1条3丁目2-27 ケアサポート末広 2階		
自己評価作成日	令和5年2月7日	評価結果市町村受理日	令和5年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居者が笑顔で生活できる環境作りに力を入れています。</li> <li>・個人の意見を尊重し、その人その人が望む生活を送れるよう努めています。</li> <li>・晴れた日には、3階から大雪山を一望でき、四季を感じることができます。</li> </ul>
---

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=koubou_detail_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=0192902096-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=koubou_detail_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=0192902096-00&amp;ServiceCd=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年3月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「ふれあいの里 グループホーム まごころの贈り物」は、旭川市郊外の幹線道路に近い住宅地に立地している。近隣にはバス停や商店、医療機関なども多く生活の利便性が高い事業所である。3階建ての2階と3階がグループホームで、居間と食堂が独立した明るく開放感のある造りになっている。壁には季節感のある装飾が施されており、家庭的な温もりが感じられる。管理者は、市役所の各部署の担当者と積極的に情報交換しながら連携を深め、いつでも相談できる関係を築いている。医療連携では、かかりつけ医の受診を継続している利用者の通院も事業所に対応し、主治医に健康状態を伝えながら適切な医療が受けられるように支援している。年2回の「まごころ便り」の他に、毎月写真入りの個別の手紙で利用者の様子を伝えることで、遠方の家族や面会制限の中で家族の安心につながっている。管理者は、日々の業務の中で職員の意見や提案を積極的に聞き取り、ケアや運営に反映させて働きやすい職場環境の整備に努めている。身体拘束や認知症、看取りに関する研修を計画的に実施し、職員の資質向上にも前向きに取り組んでいる。食事面では、利用者と一緒にどら焼きやホットケーキを作ったり、好みに応じて調理法や味付けを変えるなど、外食できない環境下でも食事が楽しめるように工夫している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に事業所理念、廊下にフロア理念を掲示し、共有している。	「入居者様が地域の中で、その人らしい生活ができる」という施設理念を基に、ユニットごとに介護理念を作成している。ケアカンファレンスの中で課題があれば、理念に沿って適切な支援方法を検討している。ミーティングで理念を確認することもある。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事はコロナウイルスによって行われていませんが廃品回収に参加し関係強化に努めています。	感染状況を見ながら近くで花見を楽しみ、近隣住民と挨拶を交わしている。管理者が地域の廃品回収に参加したり、隣接する町内会の合同会議に出席している。社会福祉協議会のボランティアを通じて、雑巾の寄付を受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて発信しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においてホームの現状をお伝えし、問題点に関して書面にて意見や要望をもらっています。	感染症流行のため書面で会議を行い、事業所の報告に関して民生委員や地域包括支援センター職員から意見をもらっている。職員研修の報告をしているが資料などは送付していない。議事録は玄関に掲示しているが家族には送付していない。	書面会議の議事録も全家族に送付するよう期待したい。また、研修資料やテーマを記載した案内などを家族に送り、参加できない家族の意見や質問なども今後の会議に活かすよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から、保護課や指導監査課の職員の方に相談をさせてもらっています。市からのアンケート等にも回答しています。	市役所の指導監査課に提出書類について確認したり、利用者の入居相談をしている。介護福祉課に介護保険の申請で訪れたり、保護課の職員とは来訪時や電話で情報交換している。何かあれば、いつでも相談できる関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回の委員会と年2回の研修で身体拘束に当たることがないか確認し、ケアの質の向上に努めています。玄関の施錠は防犯上の理由により行っています。	「身体拘束等の適正化のための指針」を整備している。「身体拘束ゼロへの手引き」などを活用した勉強会を年2回行い、不適切ケア防止委員会も3か月ごとに実施している。ユニット玄関の鍵は感染防止や防犯対策で日中も施錠しているが、閉塞感を与えないように職員が柔軟に対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の研修と3か月に1回の委員会で虐待について学び、虐待に当たるケアがないよう努めています。		

ふれあいの里グループホームまごころの贈り物

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員へ、研修資料配布を行い知識の伝達に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に不明点なくなるまで十分に説明し、理解をしていただいた上で契約を行っています。改定時と同様に行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で意見書を書いてもらい、議事録と共に1階エレベーターホールにファイルに綴じ、誰でも閲覧できるようにしてあります。苦情に関しては、入居契約時に相談窓口を案内しています。	面会時や電話で家族の意見や要望を聞き取り、支援経過記録に記入している。年2回「まごころ便り」を発行し、写真入りの個別の手紙も毎月送っている。家族の意見や要望の記録がわかりやすいように、記入方法を検討する予定である。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを通じて意見交換を行っています。	管理者は、日常的に職員と情報交換しながら意見や提案を聞き取っている。職員の提案を受けて入浴時間の変更やシフト業務の見直しなどを行っている。年1回、職員との個別面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価制度を設け、やりがいや向上心を持って働けるよう努めています。コロナクラスター時には慰労金も支給しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナウイルスの影響で外部研修は行えていないが、事業所内で勉強会を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し、情報交換の機会を持つことができます。		

ふれあいの里グループホームまごころの贈り物

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時に言動や表情観察を行いながら、不安や要望等の訴えを聞き取り、安心できるような対応策を提案し、信頼関係の構築に努めています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前にホーム見学していただき、ホーム内の取り組み、受診や職員体制、料金の詳細説明を分かり易く説明するよう努めています。要望にもできるだけ対応するよう努めています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族様の意向を踏まえ、訪問歯科や訪問理美容、居宅療養管理指導等のサービス利用に繋げています。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のできることを確認させていただき、できることを尊重し、職員間で情報を共有しご本人らしく生活できるように支援させていただきます。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年2回の「まごころ便り」と毎月、写真付きの「ご様子」を郵送し、日々の様子をお伝えしています。また、面会にも来ていただき、その際にもケア方針の確認等行っています。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人との面会を行っています。手紙が来た時は、ご本人にお渡しし、読めない時は、職員が読んでからお渡ししています。	宗教関係の知人が訪ねて来たり、友人から手紙が届く利用者もいる。感染症の流行で外出ができないため、家族が本人の好物を持って来てくれたこともある。感染症収束後は、利用者の好きな場所にも出かけたいと考えている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入って、他者との交流を支援しています。			

ふれあいの里グループホームまごころの贈り物

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、相談があればいつでも連絡してください、と伝えています。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人からの聞き取りが困難な時は、日々の言動から思いをくみ取り、ケア会議で共有し、統一したケアの提供に努めています。	会話や仕草、表情などから思いや意向を把握している。センター方式シート(B-3)を作成して定期的に更新しているユニットもあるが、ユニットにより情報が少ない利用者も見受けられる。	現状を書面で確認できるように、全員のセンター方式シート(B-3)を作成し、変化に応じて追記や更新を行うよう期待したい。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に担当ケアマネージャーやソーシャルワーカーから情報収集をしたり、ご家族様にセンター方式(B-1、B-2、B-3)の記入をお願いしています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や業務日誌に記載している。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月ごとにモニタリングを行い、ケアカンファレンスでケアプラン原案を提示し、計画の見直しを行っています。その際、ご家族の要望や居宅管理指導を受けている医師からの意見も取り入れています。	計画作成担当者を中心に全職員で3か月ごとにモニタリングを行い、6か月ごとに介護計画を作成している。面会時や電話で本人の様子を伝えながらその都度家族の意向を確認し、介護計画に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子に変化があれば記録に残し、出勤時に記録の確認を行い、情報を共有しています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々急な要望にもできる限り対応するよう努めています。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルスの影響で外出の機会は減りましたが、受診の帰りにスーパーで買い物をしたり、職員が図書館で本を借りてきたりして、楽しめるよう支援しています。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族様の意向に沿った病院を受診。受診の際は必ず同行し、日々の様子をお伝えしています。	かかりつけ医の受診を継続している利用者が多く、個別に訪問診療を受けている利用者もいる。かかりつけ医や専門医の通院は事業所で支援し、受診状況は「受診記録」に記入している。		

ふれあいの里グループホームまごころの贈り物

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、医療連携看護師が来て、日常の様子を報告・相談し、指導・アドバイスを受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、口頭もしくは介護添書にて情報提供し、入院中も電話で連絡を取りながら退院支援を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化・看取りに関する意向を確認している。看取りについては、意向を確認しつつ、事業所ですること、できないことを説明している。	利用開始時に、重度化と看取り指針に沿って事業所として可能な対応を説明している。「重度化・看取りに関する意向確認書」を利用開始時にもらっている。近年看取りを行うことはないが、年1回看取り研修を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成していますので、急変時にはマニュアルを参照し初期対応ができるようにしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施。BCPも作成している。	年2回、昼夜の火災を想定した避難訓練を行い、昨年は水害想定も実施している。通常時は消防署と地域住民の協力を得た訓練を行っている。職員の救命講習は感染症収束後に受講を進めたいと考えている。	各種災害時におけるケア別の個別対応について話し合い、定期的再確認するよう期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的には、さん付けで呼んでいるが、ちゃん付けで呼んで欲しいと希望があった時はケアプランに記載し、ちゃん付けで呼んでいる。申し送りは居室番号で行っている。	言葉かけや接遇に関する研修を行っている。タブレット端末で記録を管理し、個人名の記載された書類は事務所内で保管している。申し送りの際は部屋番号や書類を使用し、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の意向を聞きながら、支援を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	急な入浴希望にもできる限り対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様からの化粧品の購入依頼に対応したり、意思決定ができない方には、毎日、同じ服にならないよう努めています。		

ふれあいの里グループホームまごころの贈り物

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器洗いやもやしのひげとり等、利用者様と一緒にを行っています。	法人作成の献立を使用し食材も配送されてくるが、利用者の希望や好みに合わせ調理法を変更することもある。どら焼きなどのおやつ作りやパン作りも利用者と一緒にっており、食事の楽しみになっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を作成していますが、一人ひとりの状態に応じて量を調整しています。必要に応じて介助も行っています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に応じて口腔ケアを行っています。夜間は、洗浄剤で義歯の洗浄を行っています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を付け、排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っています。	排泄記録をタブレット端末で記録している。日中はトイレを利用し、夜間も可能な限りトイレやポータブルトイレを使用し排泄の自立へとつなげている。時間帯や仕草を見て一人ひとりに合った声かけや誘導を行い、失敗を減らしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、便が出ていない時は、乳製品を多めにとるなどの工夫をしています。体操時には下腹部のマッサージを行い自然な排便が出るよう努めています。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	できる限り、入居者様の意向に沿えるように対応しています。	毎日入浴が可能で、一人当たり週2~3回の入浴を行っている。一人ひとりお湯を交換し、入浴剤などが入浴の楽しみになっている。以前からの生活習慣でシャワー浴をしたり、二人介助でも可能な限り浴槽に入るなど個々に合わせた入浴支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡や居室の温度管理を行っています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をファイルに綴じて、閲覧できるようにしています。薬の変更があった時には、申し送りノートに注意事項等を記載し、服用後の変化を見逃さないよう努めています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌を歌ったり、ゲームをしたり、買い物に行ったり、一人ひとりに合った支援を行っています。			

ふれあいの里グループホームまごころの贈り物

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスにより外出行事は控えていて、希望者のみ近所の散歩や買い物に行っています。	事業所周辺の花見を楽しみながら散歩したり、受診の際に買い物や車窓から景色を楽しむこともある。ベランダでの野菜の手入れや玄関先で外気に触れる機会を設けている。感染症の収束状況を見て、酒造見学や花咲スポーツ公園などへの外出行事を行いたいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額持っている方はいますが、入居者様の必要な買い物は、会社立替で職員が購入したり、ご家族が購入して来てくれたりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はホームの電話を使用してもらっています。Zoomによるオンライン面会も行っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせ飾り付けを行っています。夏は、ベランダで野菜やお花を育てています。また、超音波噴霧器を2台設置し、空気清浄を行っています。	居間と食堂が独立しており、バルコニーに面した和室も共用スペースとなっている開放的な空間で、利用者は思い思いの場所でゆっくり過ごすことができる。ユニットごとの玄関には観葉植物や雛祭りなど季節の装飾が施されている。壁面には利用者の写真や手作りの装飾があり、家庭的な温もりが感じられる共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の状況に合わせて、テーブルや椅子、ソファの位置を変更しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で生活していた環境を作れるように、今まで使用していた物をできるだけ持ってきてもらっています。	窓の下に収納庫が備え付けられている居室もある。タンスや鏡などの馴染みの物や、テーブルや椅子などの家具を持ち込んでいる利用者もいる。壁面には写真やカレンダー、時計や本人制作の作品が飾られており、個々に合わせた過ごしやすい居室が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ハンドソープが分からない方のため、使い慣れている石鹸を置いたり、トイレの表示をしたり、自分でできる工夫をしています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192902096		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム まごころの贈り物		
所在地	旭川市末広東1条3丁目2-27 ケアサポート末広 3階		
自己評価作成日	令和5年2月15日	評価結果市町村受理日	令和5年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居様が笑顔で生活できる環境作りに力を入れています。</li> <li>・個人の意見を尊重し、その人その人が望む生活を送れるよう努めています。</li> <li>・晴れた日には、3階から大雪山を一望でき、四季を感じることができます。</li> </ul>
---

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JivvosvoCd=0192902096-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JivvosvoCd=0192902096-00&amp;ServiceCd=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年3月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所の見えるところにはりミーティング等にてホール理念の確認をしています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会での行事がコロナウイルスによって行われていませんが職員が町内活動(廃品回収)に参加し関係強化努めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議が書面開催の為。なかなか思うようにすすめられませんでした。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においてホームの現状をお伝えし問題点に関して電話や書面にてアドバイスや意見をもらっています。また管理者が末広地区の他の会議に書面にて関係性を高める努力をしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	保護課の職員来訪や、「申請手続き」やホーム内外の「事故報告」や介護保険に関する相談や意見を、その都度または監査課の職員の方に相談させてもらっています。他GHの運営推進会議にも参加させて頂いています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、どんなときにも行わないケアを目指しています。研修会を行い、各個人のケアの質の向上を目指しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回行われるケースカンファレンスを通じて、虐待にならないように話し合っています。また、入浴時や就寝介助時に皮膚の観察を行い不適切なケアがないか観察を行っています。		

ふれあいの里グループホームまごころの贈り物

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員へ、研修資料配布を行い伝達講習を行えるように努力しなるべく知識の伝達に努めています。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に関しては、入居時に全文を読ませて頂き、不明点や疑問点をその場で解消できるように努めています。理解していただいた上で契約を行えるようにしています。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議「議事録」を開催後に1階エレベーターホールに回覧出来るようにファイル掲示しています。 来訪時職員などに声をかけやすい雰囲気づくりに努めています。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各階のミーティングを通じて職員と意見交換し各フロアリーダーと連絡を密にし運営推進会議での内容を伝えています。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	H25年9月より、「正社員制度」を導入し、条件や責務内容または実績に応じ対象職員への向上に向けた体制作りや、事前に希望休み・夜勤回数希望を聞き入れ、勤務表の作成をしています。 休憩時間の確保や事業所内の整理整頓を行い、環境整備作りを心掛けています。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で、職種別(管理職者、中堅1・2、新人)研修・目的別研修を含め、資格取得に向けた外部研修や地域講習への参加や、事業所内勉強会を行えるように、ケアミーティングなどの時間を使いながら、継続して勉強できるように努めています。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会を通じて他事業所との連携をとっています他事業所の運営推進会議に参加しできる限りの情報収集に努めています。			

ふれあいの里グループホームまごころの贈り物

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時などに、言動や表情観察を行いながら、御本人が「今まで生活してきた」ペースを崩さず、不安や要望を話しやすい環境の中で、傍に寄り添うなど安心感や信頼関係が持てるように努めています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前にホーム見学していただき、ホーム内の取り組み、受診や職員体制、料金の詳細説明を分かり易く説明させて頂いています。要望などは職員を中心に話し合い、改善に向け関係を築くよう努めています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居するにあたり、入居者様が生活していた環境をできる限り崩さぬように、主治医などは極力変更しないように、入居者様の意向に沿った援助を心がけています、			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のできることを確認させていただき、できることを尊重し、職員間で情報を共有しご本人らしく生活できるように支援させていただきます。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に関しては、面会制限の為電話にて御本人の様子報告や希望などを行いながらケアプラン作成したり、年4回「まごころ便り」や2か月に1度の写真付き「ご様子」の中で、日々の様子をお伝えしています。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年はコロナウイルスの蔓延により面会制限を行っていましたがZOOMなどを利用し面会できるようにしました。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者さま同士が各居室に行かれるように、ケアを行っています。入居者様同士が交流を行えるように支援させていただいています。			

ふれあいの里グループホームまごころの贈り物

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された御家族が、ウエスなどを持ってきてくれたりしています。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用し、入居者様の日々の言動について観察し、ご本人様の思いをくみ取り各職員が統一した対応と介護を提供できるようにしています。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、ご家族とご本人から聞き取りを行い出来る限り情報を集めれるようにしています。入居前の担当ケアマネからも情報を収集に努め職員間で情報を共有できるようにしています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランに沿ってケアを提供し、職員間で気付きを共有できるようにしています。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一度のミーティング・カンファレンス時に職員からの情報や計画評価を行い、御本人や御家族の希望、要望を取り入れながら、ケアマネージャーが介護計画を作成しています。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	法人全体で書式を統一し、各グループ間、フロア移動などでもすぐに気付けるようにしています。意識統一も図りケアプランに沿った内容に出来るようにしています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今年はプランターを設置できず何も収穫できていません。来年は野菜を植えて昨年と同様に収穫祭を行いたいと思います。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年はコロナウイルスの為外部より慰問などが受け入れられない事だったので、職員が季節行事を盛り上げるように頑張りました			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様の長年見ていただいている主治医との連携を行い、小さな変化でもお伝えできるようにしています。			

ふれあいの里グループホームまごころの贈り物

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の利用者の状況報告や相談は系列施設看護師へ系列看護師対応困難な場合は管理者が看護師の為24時間での相談、緊急対応を実施しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	普段の情報提供については管理者が情報交換を行っています。入退院のムンテラに関しては、管理者が参加し医療的な部分に関しての調整を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約書と共に、「重度化に伴い方針」に基づき説明させて頂いています。 御本人や御家族の希望を確認し、医師・看護師・職員と十分に話し合い「看取り」についての話し合いを進めて対応が出来るように努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成していますので、急変時にはマニュアルを参照し初期対応ができるようにしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年水害対策を行いました。備蓄品も食料などを3日分確保しています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報には鍵のかかる場所に保管しています。入居者様各個人に合わせた声掛けを行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の意向をくみ取れるように、ケア実施時に職員間で気付きを共有できるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりが尊厳を持って生活できるようにその日の気分体調に合わせたケアをおこなえるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意思の決定ができる方にはその日の気分にあう服装を選んでいただいたり、2か月1回の訪問理美容を利用し整髪に努めています。		

ふれあいの里グループホームまごころの贈り物

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時はついたてを利用しながら、なるべく会話を優先しながら行っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取慮に関しては各個人の記録をつけて、不足がないように援助しています。栄養バランスに関しては、管理栄養士が献立を製作し1日をつうじて過不足なく計算してくれています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨き、義歯の洗浄を行っています。自力にて行えない方に関しては、介護員のほうで援助を行い口腔内の清潔を保持できるようにケアしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様一人ひとりの記録をつけており大体の排泄パターンの把握に努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールを行うために、主治医と連携を密にしています。体操時には下腹部のマッサージを行い自然な排便が出るようにしています、		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を提供できる時間は決まっていますが、入居者様の意向に沿えるように入浴支援を行っています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冬季は、加湿器を使用し加湿に心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者様が飲まれている薬を各個人ファイルに挟みすぐ確認できるように工夫しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様によっては、編み物やおセロなど行い毎日楽しみに生活されています。		

ふれあいの里グループホームまごころの贈り物

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスにより外出することが出来ないため、季節行事や室内でできる事を重点的に行っています。早く外出規制が溶ければ外出行事を再開したいです。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を持ち込んでいない方はいませんので、ホーム側にて金銭の建て替えを行い入居者様が買い物できるようにしています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関しては各居室にはありませんので、事務所の電話を使用してもらっています。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を大切に、昨年まではお花などを植えて季節感を出してきましたが、今年はそれが出来なかったため、季節行事を大事にし、掲示することによって入居者様とコミュニケーションを行っています。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	消防法に違反しないように、廊下に椅子や机を置き各入居者様がケガをしないように配慮しながら各個人が生活できるように援助しています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が生活していた時と同じ環境を作れるように、自宅で生活に使用していたものを持ってきてもらっています。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	御本人と御家族の了承を得て、居室前に表札や御本人の好まれる絵や写真を飾ったり、トイレの場所が分かるよう「プレート」で示しています。			

## 目標達成計画

事業所名 ふれあいの里グループホームまごころの贈り物

作成日：令和 5年 3月 21日

市町村受理日：令和 5年 3月 23日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	3階ユニットで、アセスメントが不十分な入居者様が見受けられる。	センター方式シート(B-3、D-1、D-2、)を定期的に更新し、入居者様の状況に沿ったケアを提供する。	センター方式シート(B-3、D-1、D-2、)を利用して、入居者様の生活状況を把握し、職員間で情報共有し、ケアの質の向上に努めていく。	6ヶ月
2	4	運営推進会議を书面開催し、議事録を玄関に掲示しているが、家族に送付していない。	議事録を家族に送付する。合わせて、研修資料等も送付し、参加できない家族からの意見や質問を今後の会議に活かしていく。	運営推進会議は、今後もしばらくは、书面開催の予定。会議資料と合わせて、研修資料も送付し、意見を求めていく。開催後、議事録を作成し、会議に参加していない家族にも議事録を送付する。	3ヶ月
3	35	年2回、昼夜を想定した避難訓練を行っているが、ケア別の避難想定をしていない。	ケア別の避難想定を行う。	ミーティングでケア別の対応について話し合い、机上でシミュレーションを行う。	6ヶ月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。